

寸言

株式会社ダイセル
執行役員
特機・MSDカンパニー副カンパニー長
兼同カンパニー特機事業部長
八木 幹夫



火薬の力で命を守るモノづくりを

本年6月に特機・MSDカンパニー特機事業部長に就任しました八木幹夫です。

当社株式会社ダイセルは、1919年にセルロイド製造会社8社の合併により大日本セルロイド株式会社として誕生しました。ご存知の通り、セルロイドの原料は硝酸セルロースであり、火薬の原料でもあります。

特機事業は、1953年にこの硝酸セルロースを主成分とする発射薬製造からスタートし、火薬、火工品の技術による製品群を拡大して今日に至っています。現在は、発射薬に加えて各種ミサイルのロケットモータ用推進薬の開発製造、また航空機関係ではF-15、F-2戦闘機、T-4ジェット練習機のパイロット緊急脱出装置の開発製造を担当しました。特に脱出装置は、システムとして始動用のイニシエータを始め、キャノピー投棄、座席の射出、パラシュート開傘までのイベントを迅速かつ安全に作動させる技術を確認しています。さらにパイロットの安全を確保する航空ヘルメット、酸素マスク等の救命装備全般の開発にも取り組んでいます。

一方で、これらの防衛関係事業で培った「必要な瞬間に確実に作動させる」火薬、火工品技術を民需に展開し自動車エアバッグ用インフレーター（ガス発生器）を開発しました。1987年よりスタートし、現在は、MSD（Motor

vehicle Safety Device）事業としてお客様である自動車メーカー様、部品メーカー様のグローバル化により当社も世界6カ国7拠点で製造しています。特機事業は、ガス発生剤である火薬の製造を担当しております。

今後の特機事業の展開としては、防衛政策、防衛装備調達環境の変化により従来の当社の発射薬、推進薬、緊急脱出装置の事業分野も大きく影響を受けるものと思われませんが、新しいニーズに対応した製品開発、既存製品のさらなる性能、機能の向上などに注力しているかねばならないと考えます。例えば安全装置の開発では、インフレーター技術の応用で航空機、ヘリコプターの緊急着地での衝撃緩和システムや破壊変形した機体からの脱出システムの開発も目指しています。

特機・MSDカンパニーは、「いのちを守る-We Save Lives-」を合言葉にモノづくりをすることを掲げています。火薬という危険な化学品を命を守る製品や装置にすることは私たちの使命であり、より安全な社会づくりへの貢献になるものと考えます。微力ですが、日本航空宇宙工業会会員の皆様にご指導ご支援を頂戴しながら、工業会の発展に寄与出来ればと願っています。今後とも株式会社ダイセルをよろしく申し上げます。